

令和3年度 竹田小学校学校評価

本年度の学校評価がまとまりました。

竹田小学校では、本年度、「みいだし・みんなと・みらいを切り拓く！～学び合う喜び、人と関わる心地よさ～」を目指し、①「確かな学力」②「豊かなこころ」③「健やかな体」の3視点から取り組みました。

目指す児童像としては、「自分の考えが持てる子」「自分も相手も大切にできる子」「命や健康を大切にする子」等をあげ、このうち、①「確かな学力」においては、主体的な学びと深める学びや情報活用能力の育成、また、基礎学力の定着に努めました。②「豊かなこころ」においては、自尊感情を高めることや「3つの教え」の浸透、また、ふるさと教育の推進に努めました。③「健やかな体」においては、元気大作戦やメディアコントロールといった基本的な生活習慣の確立等に取り組んできました。

目標の達成に向けては、実践に努めることはもちろん、達成に向けた取組ができていないか評価する必要があります。このため、アンケート等によって児童や保護者の意見を踏まえて検証し、公表して意見を伺い、学校運営協議会の委員さんからも学校自己評価を評価していただきました。

竹田小学校では、今後も評価結果を活かした学校運営に努めてまいります。皆様におかれましては、学校評価の趣旨をご理解いただくとともに、連携協力による学校づくりに一層ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

○自己評価			○学校関係者評価
評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策	自己評価の各観点に対する評価
<ul style="list-style-type: none"> 誰もが安心して、不登校が生まれにくい「居場所」づくり 児童理解の深化 	A	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが安心して居場所となれる学級、また、楽しいと感られる学校を目指して取り組んだ。 会話や見守りを通じてふだんから児童の様子を把握し、アンケートや担任との個別面談も行なって、いじめの防止や悩みの解消につなげてきた。 いじめ等の問題が発生した際は、委員会で情報共有して即対応するなど、解決に向けた取組を組織的に行ってきた。 職員会ごとに児童の様子を共有して児童理解を深め、組織体制を整えて早期対応に努めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 居場所づくりの取組がしっかりなされ、子ども達が安心して学校生活を送っている。児童と先生方との信頼関係もしっかりと築かれているのだろうと想像する。 「学校が楽しい」という子が多く、先生方の努力だと思う。「楽しくない」と答えた子へのフォローも確実に行ってほしい。 小規模校ならではの特色を生かした学校運営がなされている。不登校がゼロなのもいい。 同級生と作りあげた絆が心に安らぎをもたらし、不登校が生まれにくい居場所を創り出している。 子どもの様子から、心通い合う学校になっていると思う。
<ul style="list-style-type: none"> 自立的な生き方の基盤づくり 学校の新しい生活様式への理解と実践 社会的自立につなげる視点を持った地域学習の展開 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の全体を通して主体性の醸成に努め、自己コントロール力を育成してきた。その核となる具体的な取組が「元気大作戦」であった。 学校HP、学校だよりや保健だより等を通じ、必要な情報を適時に発信し、安心につなげてきた。 「ふるさと竹田」への愛着とほこりの醸成はもとより、キャリア教育や社会的自立にもつなげる視点を持って地域学習を展開してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや各種の通信、また、HPの充実などがあり、子ども達の学校での様子がよくわかりました。 学校や地域に対する子ども達の思いをみ、良い方向に健やかに育てられていると感じ、感心している。 週末には、1週間の出来事が地域に放送され、共通の話題によって保護者と地域とが繋がっていている。 年に数回でいいので、土曜日に登校日を設け、地域の方々の触れ合いの場を作るといのはどうだろうか。
<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びと深める学びの追究 基礎学力の定着 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職員で共有した「主体的に取り組む児童の姿」を育てよう、自ら課題意識を持って、全員参加できる授業づくりを目指して研修を進めてきた。 算数を中心に複数指導を充実させ、つまずきへの早期対応に努めてきた。 ICTの効果的な活用を継続的に模索してきた。 支援の必要な児童には、授業内での学習支援の他、放課後学習での拾い上げによっても、学習不安を減らせるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年よりも算数の成績が改善されている。努力された部分が良くなっているというのは良いことであり、これが続くようにすることが大事。そういう意味でも、「勉強がわかる」という子が多いというのは頼もしい。 複数指導の充実で、勉強の苦手な子にも頻りに声が掛けられていると聞く。わからないところを見つけやすくなったことで、学力調査の成果につながったのだろう。 放課後の頑張りタイムを含め、学習指導に労力を惜しまず関わってくださる先生方に感謝します。
<ul style="list-style-type: none"> 情報活用能力の育成 自分を表現する場の効果的活用 道徳教育の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> 主体性発揮の場が学校生活全体の中で保障され、授業においても、自分の考えを持たせ、他者との学び合いによって深められるよう取り組んできた。 対話的な学びを「学び合い」として高められるよう取り組んできた。課題設定や授業展開の工夫について、今後一層の改善を図っていく。 ICTが普段使いされ、児童の興味関心を高めるとともに、児童の考えを表現し易くできた。今後は、本質を的確につく授業を目指していく。 自分事として考え、深める道徳を展開し、実際の生活にも役立てようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の考えを持たせる」ということはできていると思う。子ども同士が学び合って、深い勉強になっていくように期待している。 タブレットがよく活用されている。日々の宿題についても、タブレットで取り組めるよう、環境整備をしてもらいたい。 人権参観日には、「家庭対話の日」の取組が設けられ、親子で話し合う場となっているのが素晴らしい。 多様性を認め、生活の中でもそのことを実践しようとする子どもとして育ててほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 校内支援体制の整備と充実 個別最適化に向かう教育支援の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内支援体制を整え、組織的な指導が行えている。 定期的な交流や研修等を通じて教職員の児童把握が進められており、関係機関とも連携した児童理解の深まりが生み出されている。 ニーズに応じた合理的配慮が提供できており、教育支援の具体として、個別最適化が目指されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 差別や偏見を持たず、誰もが手を差し伸べることができるように育ててもらっていることを、とてもいいと思う。 保護者の協力もよく得られたということであり、信頼関係の中にこの教育がなされていることを嬉しく思う。
<ul style="list-style-type: none"> 自分も相手も大切にできる人権意識の高揚と実践力の育成 主体的な活動の推進と、「3つの教え」の浸透 	B	<ul style="list-style-type: none"> あいさつや言葉遣いなど、自分も相手も大切にできる取組が浸透し、どの児童にも安心と居場所がある。 児童会による縦割り班活動やほめ言葉のシャワー等、お互いを尊重し、認め合うしかけや活動が日常的に展開され、級友や下級生が大切にされている。 「3つの教え」を核とし、焦点化された視点によって実践的な人づくりが日常的になされている。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつはしっかりできており、子ども達からしてくれる。 縦割り班活動を通して異学年交流が盛んになされている。下級生は上級生の姿に学び、上級生も下級生の手本になろうとしている。こうしたことが日常的に行われているのが良い。 友達の良いところを見つける目が育っているところは望ましい。ただし、縦割り班遊びでの評価が低下したところは気になる。今後も注視しつつ、より良く対応してほしい。

※達成状況 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善